

# 行動問題への対応（チーム支援）

R7. 2. 20  
まかろん



右のQRコードから  
左のページの表示を  
お願いします。



合同会社サクスシェア  
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



## Point① 行動問題が起きる理由の理解

行動の機能 氷山モデル 行動の原理 要因の分析・記録

## Point② 行動問題が起きた際の対処

行動問題への対応サイクル 環境の調整 (防ぐ①)

## Point③ 行動問題を防ぐ方策 (防ぐ②-1 ②-2)

バイパスモデル 望ましい行動5つのサイクル戦略

# Point①

## 行動問題が起きる理由の理解



**起きる行動には原理原則があります！**

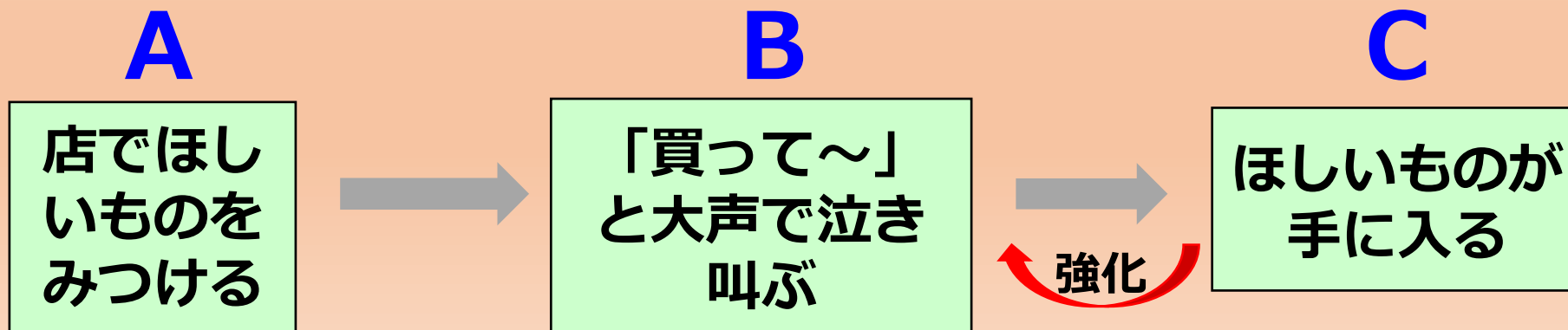
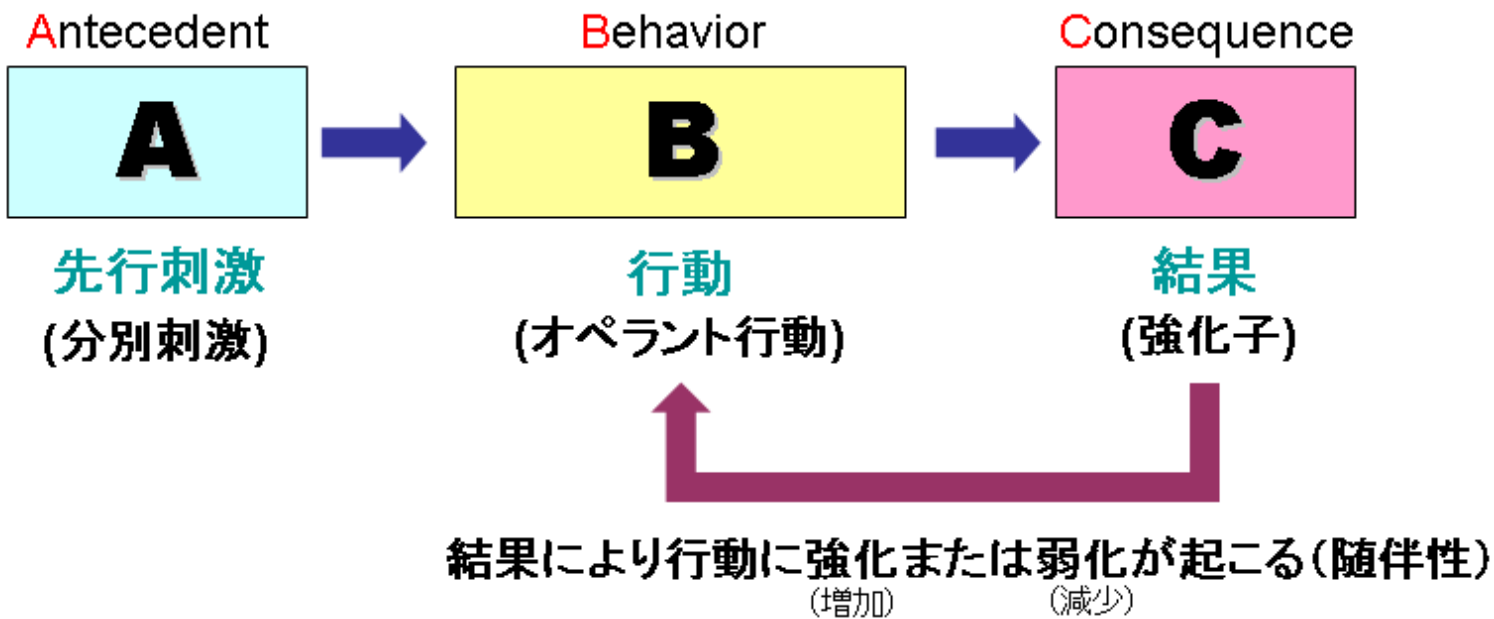
# 行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

- ◆ 要求・要望・目的がある ⇒ 行動（含不適切） OK！
- ◆ 無意識レベル ⇒ 行動 対応困難！

# 行動問題がおきるからくり

## 三項随伴性(ABC分析)



## Point②

# 行動問題が起きた際の対処



**人に頼る選択肢を選ばないようにします！**

# 行動問題に対処するサイクル

## ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

## ② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）

【理由・要因が  
明白な場合】



## ③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

---

## ① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

## ② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が  
不明確な場合】

# ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める (理由・要因が明白)

- ア 安全の確保
  - ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう安全を確保する (自傷の軽減 他児の移動など)
- イ 刺激の除去
  - ・ いやになっている刺激を取り去る (視覚 聴覚 触覚 におい など)
- ウ 刺激の制御
  - ・ 現状以上の刺激を与えない (クールダウンスペース クールダウン部屋)
- エ 受け入れ
  - ・ まずは気持ちのすべてを受け止める
- オ 切り替え
  - ・ 本人が興味ある話題や物を使って気持ちを切り替える
- カ 見守る
  - ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ



## ② 落ち着いたたらトラブル処理をする

(理由・要因が明白)

- ア 聞き取り
  - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
  - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
  - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
  - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
  - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
  - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
  - ・ 今後のふるまい方の約束をする
  - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

### ③ 約束に沿った対応をする

(理由・要因が明白)

#### 才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を「ルール化」する。

Point ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

Point ② 決して『押し付けにならないように』

Point ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

Point ④ 取り組みの成果には、必ず評価（＝賞賛・報酬）を！

## Point③

### 行動問題を防ぐ方策（防ぐ① 防ぐ②）



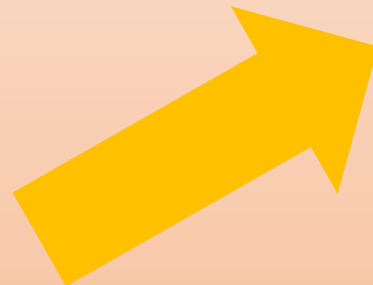
防ぐにはベースの力を身につけること

# 望ましい行動を身に付けさせる

## ステップ ①

- ① 行動問題の発生を回避する支援力

状況と時期の適切な見立て



## ステップ ②

- ② 望ましい行動を身に付けさせる

# 望ましい行動を身に付けさせる

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と  
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが  
手に入る

## 【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

防ぐ  
①

防ぐ  
②

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする（防ぐ①）

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

# 行動問題を防ぐ②ー1

## 代わりに行動をつくる



行動問題を起こさなくても済む別の行動を身につける

# 望ましい行動を身に付ける5サイクル戦略

## サイクル① 不適切行動を減らす・なくす

- ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

## サイクル② 望ましい行動を新たに獲得させる

- ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する

## サイクル③ 獲得した行動を維持させる

- ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する

## サイクル④ 獲得した行動を般化させる

- ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする

## サイクル⑤ 獲得した行動の自立度を高める

- ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

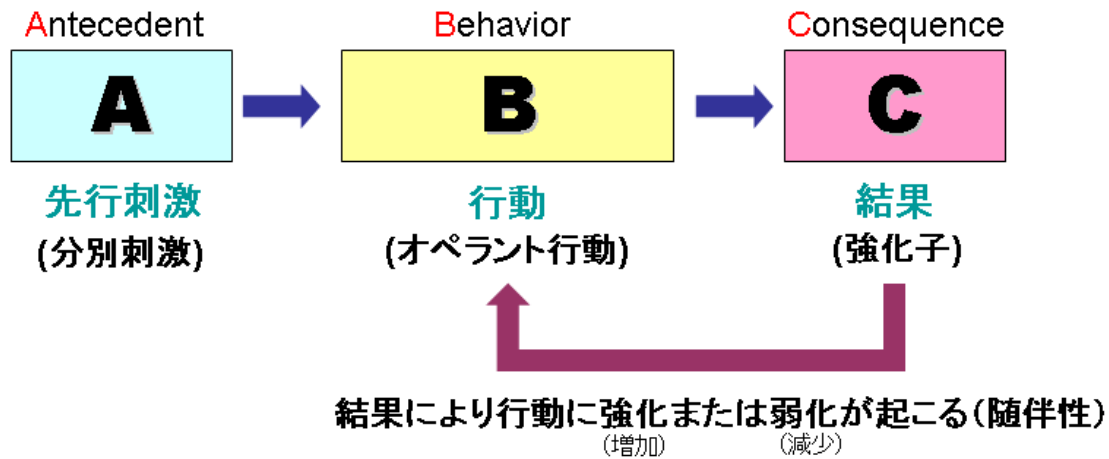


# ① 不適切行動を減らす 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

## 【不適切行動を減少させる方法】

不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

### 三項随伴性(ABC分析)



方法① 嫌悪刺激の呈示

方法② 消去手続き

方法③ 刺激の撤去

方法④ 分化強化手続き

【不適切行動が強化されている状態を断ち切る】

# ① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」「消去」「分化強化」

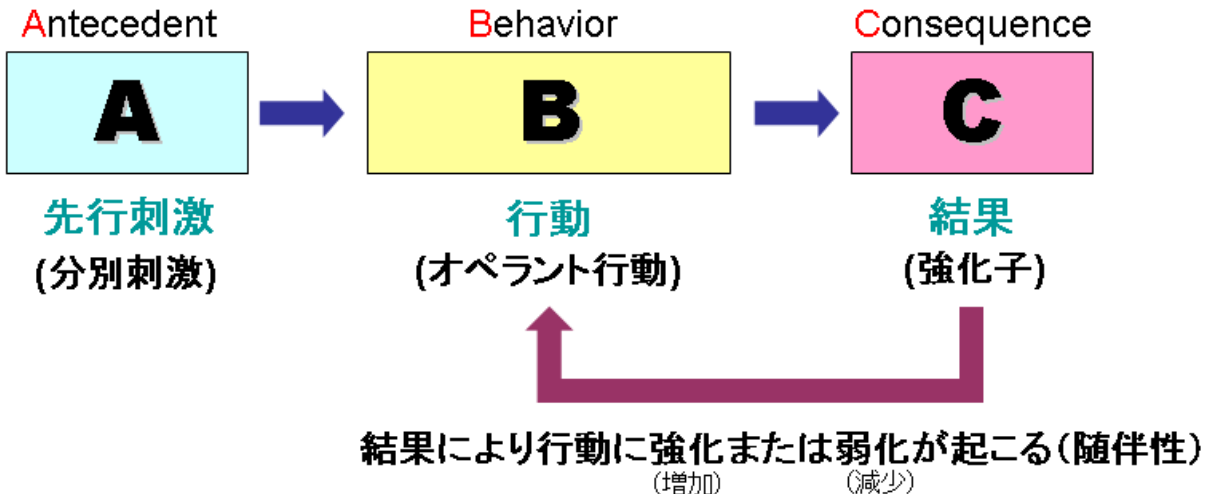
## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法① 嫌悪刺激の呈示

無条件性嫌悪刺激：肉体的な苦痛や不安感  
を与えるもの

条件性嫌悪刺激：経験を通して嫌悪感を  
与えるようになったもの

## 三項随伴性(ABC分析)



※ 他の方がうまくいかないときの  
最後の手段  
直接「虐待」につながりかねない

対人職を専門とする支援者  
として使用したくない方法

# ① 不適切行動を減らす

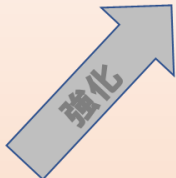

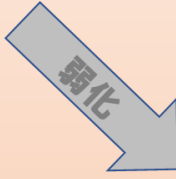

「タイムアウト」

「消去」

「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法② タイムアウト (=罰)

	出現	消失
好子		
嫌子		

好子・強化子を取り去ることで強化を断ち切る

タイムアウト：強化されている機会を一定期間与えなくすること

- ・ 非隔離タイムアウト    その場所で行う
- ・ 排除タイムアウト    その活動や環境から切り離す
- ・ 隔離タイムアウト    別室に移動させて行う

- ・ 短く
- ・ 終われば元に

**本人、保護者、関係者などの承諾を得ること**

# ① 不適切行動を減らす

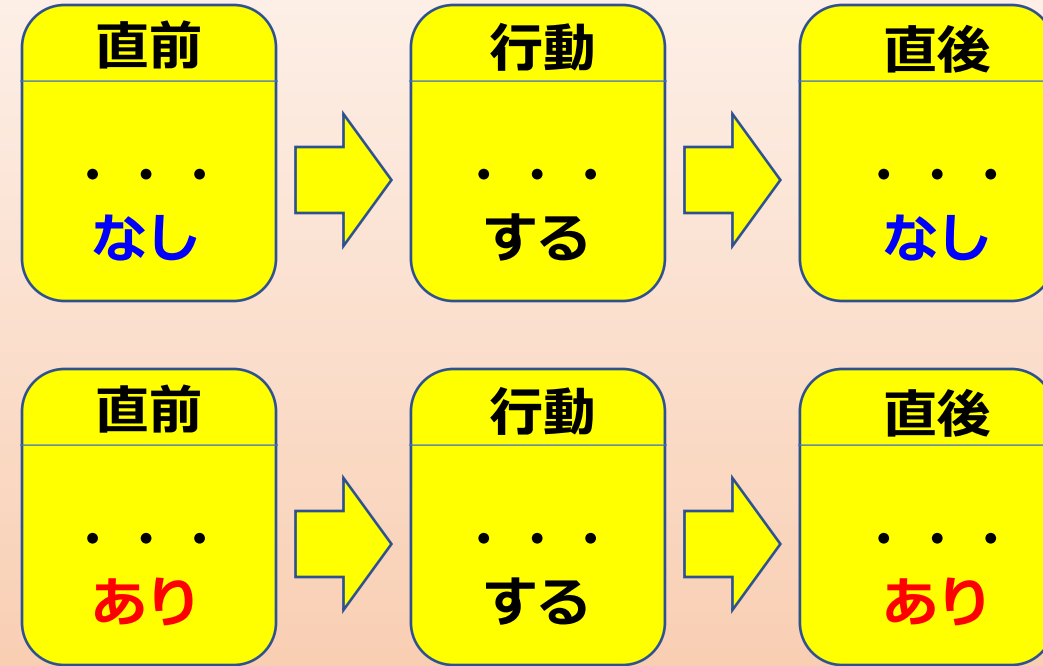
# 「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法③ 消去手続き

## 【消去】

これまで**強化されていた行動**に対して  
強化の随伴性を中止すると  
強化の随伴性を導入する以前の状態まで  
その行動は減少する



※ 「計画的無視」  
強化も弱化もしない  
= なにもしない

# ① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化      イ 他行動分化強化
- ウ 対立行動分化強化    エ 代替行動分化強化

## 【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

**ア 低頻度分化強化**    : 不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

問題行動があらかじめ決めた回数や時間の基準値以下で起こった場合に強化をすることで発生頻度を減少させる。

【例】 帰りの会で、他者が話をしているのに自分勝手にしゃべり始める回数が2回以下だった時、会が終わってからごほうびとしてトークンカードに頑張ったシールを渡す。

# ① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化
- イ 他行動分化強化
- ウ 対立行動分化強化
- エ 代替行動分化強化

## 【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

**イ 他行動分化強化** : 不適切行動が起きていない場合を強化する

不適切行動が起きていない時間帯やその瞬間があるときに強化をすることで、不適切行動が起きない時間や場面を増やしていくアプローチ。

【例】これから10分間、途中で休まず集中して宿題に取り組むことができた時、宿題全部が終わった後に、好きな職員と好きな遊びを10分間することができる。

# ① 不適切行動を減らす

# 「タイムアウト」「消去」「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化      イ 他行動分化強化
- ウ 対立行動分化強化    エ 代替行動分化強化

## 【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

### ウ 対立行動分化強化：同時に実行できない代替りの行動を強化

不適切行動と同時に成立しない行動をターゲットにし、その行動がみられたときに強化をする。一方、不適切行動が発生しているときは強化しない。

【例】（離席と着席）頻繁に離席がみられる子どもが、着席をして創作活動に取り組んでいる姿をほめて強化し、離席している場合には強化しない（声掛けをしたり注目したりなどの反応をしない）。

# ① 不適切行動を減らす

「タイムアウト」 「消去」 「分化強化」

## 【問題行動を減少させる方法】

### 方法④ 分化強化手続き

- ア 低頻度分化強化
- イ 他行動分化強化
- ウ 対立行動分化強化
- エ 代替行動分化強化

## 【分化強化とは・・・】

望ましい行動を増やし（強化し）、望ましくない行動を減らす（消去する）ために、強化と消去の原理を応用する手法

### エ 代替行動分化強化：不適切行動に置き換わる代替りの行動を強化

不適切行動に代わる代替行動を強化することで、不適切行動に費やされていた時間の割合よりも代替行動に費やされる時間の割合を高めるというアプローチ。

【例】人の物を無断で借りることがよくある子どもが、「貸して」と頼んで他児から了承を得て物を使うことができた場合のみ強化する。



状況の確認（起きていること）

やるべきこと（案）

やるべきこと（吟味）

やるべきこと（チーム）